


連携・協働に向けての手掛かり 

<連携を組むためのポイント> ~URの立場から~

- ✓ **求めているのはプレイヤーではなくパートナー**
 - ・自らの想いだけではダメ
 - ・対等な関係で、それぞれの役割分担の下事業を行うパートナーを求めている
 - ・大きな目的を共有した上で、それぞれの得意分野で相手の欲しているものを補い合いながら、win-winの関係を築く
- ✓ **提供するサービスの有効性、取組みの持続性**
 - ・URの居住者に対するメリット
 - ・新規顧客獲得に向けた訴求力
 - ・取組みの持続性(マンパワー、組織としての持続性、運営費用の確保)
- ✓ **連携を組むメリット、他の事業者との差別化**
 - ・なぜその事業者と連携するのか(事業者の特定理由)
 - ・連携を組むことによるURのメリット(具体的に明確な根拠)
 - ・区市町村を絡めた連携の可能性

21

■連携を組むためのポイント(URの立場から)

- ・目標を共有し、対等な関係で、それぞれの役割分担の下事業を推進する「パートナー」であること。
- ・提供するサービスが、UR居住者にとっても新規顧客獲得に向けても有効であるということ。取組に持続性があること。
- ・連携を組むメリットが明確で、他事業者との差別化を図れること。

<コーディネーターコメント>

松田氏:

せたがや子育てネットは、ひろばだけをやっている団体ではなく、地域の子育て環境を良くしたいというところがミッションです。

ここはモデル的に「こういう地域にしたい」というような、コミュニティづくりというところでお話を受けました。

先ほどお話して下さったように、実はこの団地では高齢者が半分くらい戻って来ており、小学生がほとんどいないんですが、あまりにもしーんとしていたので、私たちはひろばに来てくれることだけを目的とするのではなく、ひろばから飛び出して行って、「団地に立ち話を増やす」ということを目標にしています。

最後は、コミュニティにちゃんと繋がって欲しいというところでやっています。想いはそこにあるので、いくらでもやることがあるし、楽しいのですが、運営の部分では行政と組むということが、これからの課題になっていくなと思っており、NPO 側としては、来年度どうするかという話が出ています。

UR さんは応援してくださっているとは思いますが、先ほどトレッサさんは、ビーのビーのと月1回ミーティングとおっしゃっていたので、私たちももう少し濃い関係を築くことと、自治会が協力してくれたり、住んでいる人たちがボランティアに入ってきてくれたり、自分たちで運営ができるようになってきたりなどの変化があるので、それを違う地域での実践に繋ぐようにしたいと思っています。ここだけの協働ではなく、「コソダテ UR」全体に、私たちがどれだけ協力できるかということが重要だと思います。

私たちは一点突破、全面展開で子育てしやすいまちにしていく。そこをどのように一緒にやっていくか、というところが今の課題だと思います。

私たちはひろばの運営だけではなく、例えば、ひろばに来ているお母さんたちが、マップを作り、UR に協賛をいただき、地域の中で2,000部配布しています。

そうすると、あそこにURがあるのだということが、ここから広がっていったり、ただの広告とかテレビCMだけではなく、まちの中で知ってもらえるような取組も、NPOはできるのではないかと、という実感を得ています。